

# 一人ひとりの学ぶ力を引き出し、New 草津型アクティブラーニングを 生かした効果的な指導を行い、子どもの学力を向上する。

## 1 学ぶ力向上の方針

- 子どもの「分からない」に寄り添い、誰もが安心して学べる環境を作ることによって学習意欲を高める。
- アナログとデジタルを融合させ、主体的で協働的（対話的）、問題解決的な学習を行い、学びを実感できる授業を作る。

## 2 学ぶ力向上の具体的な取り組み

教室環境のユニバーサルデザイン化、カリキュラム・マネジメント、子どもの学ぶ場の設定、教師の適切な指導・支援

### 学びを実感できる 授業づくり

#### ○New 草津型アクティブラーニングの推進

- ① 問題・課題を把握する
- ② 見通しを持つ
- ③ 自分で考える
- ④ ペアで、みんなで考える
- ⑤ まとめ・振り返り

- ・アナログとデジタルを融合させる。
- ・今、何を学ぶのかが見て分かる工夫をすることで、一人も見落とさない授業づくりをする。

### 学ぶ意欲を引き出す 学習集団づくり

- 分からないことを聞けるあたたかい学級づくり  
「分からない」を起点にした授業を展開し、分からないことから学んだ経験を学力向上につながったものとして子どもに意識化する。

#### ○教室環境のユニバーサルデザイン化

居心地がよく、安心でき、学びやすい環境を整えることで、誰もが「分かる・できる」授業につなげ、学ぶ意欲を引き出す。

- 子どもの理解に努め、結果だけでなくその努力の過程を認めたりほめたりすることで、チャレンジする心を育む。

### 子どものために一丸となって 取り組む学校づくり

#### ○算数教室

質問タイムや再チャレンジ教室を設けて、「分かった・できた」という実感を増やす。休み時間や空いた時間にすぐに学習に取り組めるように、問題プリントを用意し、教室の一角に用意する。

#### ○MIM学習による特殊音節の習得（低学年）

- 「書くこと」の学習を学年の発達段階に応じて充実させる。

- ・1～3年生…振り返りの充実
- ・4～6年生…「書くこと」の課題（要約、資料の読み取り、自分の考え）